

遺跡からは多くの遺物が出土しますが、中には作りかけの木の道具（未成品）もあります。

松原田中遺跡では弥生時代の鍬の未成品がみつかり、その製作工程を復元することができます。



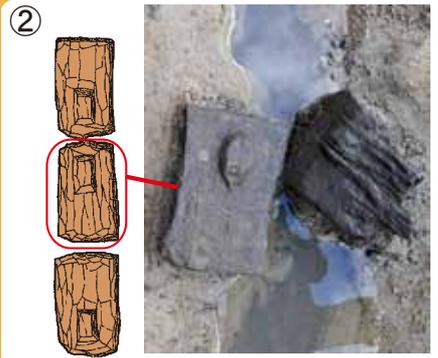
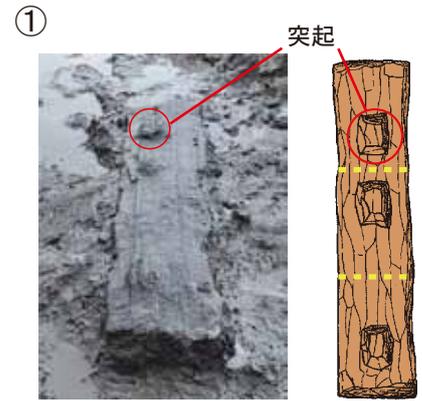
鍬づくりを復元する

①は板状の未成品で、表面には3つの突起が削り出されています。この突起は鍬の柄を差し込む部分です。その間隔から、同じ大きさの鍬を3つ作ろうとしていたことが分かります。

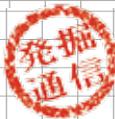
ここから一つ一つを切り離して、形を整えたものが②です。ここまでくれば完成まであと少し。

次の段階で突起に穴をあけ、柄を差し込むと鍬のできあがりです(③)。

出土した未成品をみると、どのように鍬を作ったのかわかるとともに、どうやって同じ大きさ、形のをたくさん作ろうとしたのか、という弥生時代の人々の工夫がみえてきます。



(財) 鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所
〒680-1133
鳥取市源太 12 番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)
TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス :
matsui@pref.tottori.jp



今月で松原田中遺跡は発掘調査が終了しました。今後は出土した遺物などの整理作業を進めていきます。今整理の中で分かったことはホームページや通信でお知らせしていきます。

昨年12月25日に行った本高弓ノ木遺跡の現地見学会には90名以上の方にご参加いただきました。多数の方々のご参加お礼申し上げます。

埋もれた太古のくらし

もとだかゆみのき いせき

本高弓ノ木遺跡



弥生時代の貯木場発見！

弥生時代前期（約2500年前）の大きな流路を掘っていると、あちらこちらから丸太が出てきました。その数は大小あわせて100点を超え、中には長さ11メートルにもなる大木もあります。みつかった丸太の多くには枝や根、樹皮がついていません。

石斧のあとがついたものもあることから、自然に溜まったのではなく、切り出してきた木材を流路の中に貯めていたと考えられます。



木の表面についた石斧のあと

その姿はまさに貯木場。
現代と同じように、虫よけや防腐のために木を水漬けにしていたのかもしれない。

いにしえ湖南ものがたり

まつばらたなか いせき

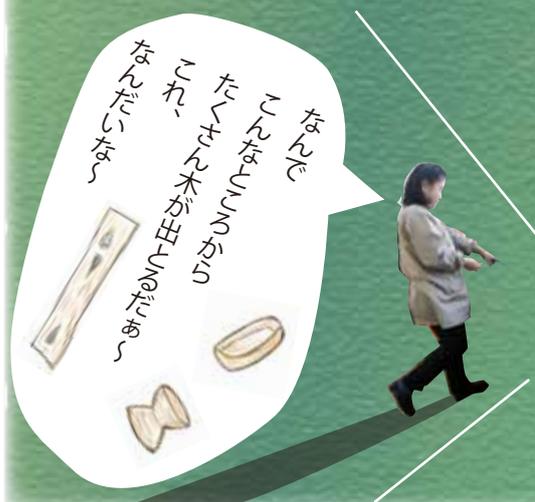
松原田中遺跡



たくさんの木が見つかった！（2区）

弥生時代中期初頭（約2200年前）の溝から、多量の木が見つかりました。これらの中には、棒状や板状に加工したもののほか、作りかけの高杯や表紙で紹介した鋏などがあります。

この溝は、素材となる木や未成品を貯めるための場所だった可能性があります。これから、みつかった木を検討して、溝の機能を明らかにしていきます。



たくさんの木が出土した溝